

春 告 草

令和3年度 第7号 令和3年11月2日 進路指導部発行

秋が深まり、冬へと向かうこれからの時期。風邪やインフルエンザはもちろん、新型コロナウイルスにも負けず、勉強に集中できる体制を整えておきたいものだ。自律神経のバランスの乱れは、さまざまな要因で引き起こされるが、まず心がけたいのは「睡眠」だ。時間の長さだけではなく、質も大切。朝起きたら日の光を浴びて、体を目覚めさせたい。きちんと眠って、ごはんを食べて、学習効率をあげよう！

共通テストまでの流れを確認しよう！

6年生全員が共通テストの志願票を記入し、学校経由で大学入試センターへ郵送した。志願票は無事に受付され、学校に受領証と「確認はがき」が届いた。共通テストまでの今後の流れは、以下の通りである。5年生、4年生も、1年後、2年後の自分たちの姿だと思って、よく読んでほしい。

①「確認はがき」の確認

大学入試センターから学校へ届いた「確認はがき」は、生徒本人へ配布される。自分が志願票に記入した内容と間違いがないか、志願票のコピーと照らし合わせて、しっかり確認しよう。もし、間違いがあった場合には、すぐに担任と進路指導部へ申し出てほしい。

②「確認はがき」の内容訂正

「確認はがき」の記載内容に誤りがあったり、受験教科等をやむを得ず訂正したりする場合は、早急に対応しなければならない。すぐに担任と進路指導部へ申し出てほしい。『受験案内』（志願票を記入したときに配布した冊子）にある届け出用紙に記入し、訂正の手続きをすることになる（詳細は、進路指導部へ確認すること）。

③「受験票」の確認

12月15日（水）までに「受験票（写真票、成績請求票）」とともに、『受験上の注意』が大学入試センターから学校へ届く。受験票には、受験教科名、受験科目数、受験者本人の住所等が記載されているので、内容に誤りがないか、よく確認しよう。また、受験会場も記載されているので、確認しておこう。

『受験上の注意』には、試験当日に発熱や体調不良で受験できなくなった場合の対応や、追試験の申請方法等が記載されている。詳細は「受験票」と『受験上の注意』を配布するときに、説明する予定である。

④受験会場の確認

会場となる大学の所在地、自宅からの交通経路、所要時間などについて、必ず調べておこう。可能ならば、冬休みの間に（できれば試験日と同じ曜日の、同じ時間帯に）会場まで行ってみるとよいだろう。初めて通る道は、思った以上に遠く感じる。まして、それが試験当日ならば、なおさらだ。「この道で合っているのかな…？」と不安に思いながら会場に向かうよりも、事前に下見をしておいたほうが安心だ。「土日のこの時間は、バスの本数が少ない」とか「駅前にはお店がないから、自宅近くで昼食を購入したほうがよい」など、気がつくことがあるかもしれない。共通テストの時期は、雪が降ったり、路面が凍結したりして、電車やバスが遅れてしまうこともある。余裕をもって行動できるよう、できることはやっておこう。

併願は、第1志望校の合格のため！

「併願なんて、自分には必要ない。」「受験するだけでもお金がかかるし、第1志望校だけでよい」と、思っているだろうか。それとも、「併願を何校受ければいいのか、わからない」と、不安に思っているだろうか。

長い時間をかけて、努力を積み重ねてきているのだから、自分が本当に行きたい学校の合格を手にしたいの、当然だ。しかし、受験には「絶対」はない。そこで、多くの受験生はいくつかの大学を「併願」し、いわば保険をかけて第1志望校に臨むのだ。

では、併願はあくまでも「保険」に過ぎないのだろうか。そう考えているなら、損をする。併願は万が一に備える保険的手段であると同時に、第1志望校合格を引き出す手段にもなり得るのだ。

もちろん、「有名な大学なら、どこでも…」といった焦点の定まらない併願では、好結果は引き寄せられない。まずは、軸となる第1志望校を明確にすること。そして、その合格の可能性をより高めるために、戦略的に併願を計画することが重要だ。併願のメリットを最大限生かして、第1志望校の合格をつかんでほしい。

①併願校対策＝第1志望校対策

入試科目一覧や、偏差値のランキング表だけで表面的にとらえるのではなく、併願校の受験対策にかかる労力、時間の負担なども考慮しよう。できることなら、併願校の受験対策が第一志望校の対策につながるような、受験プランを立てたい。そのためには、自分の現状学力と第1志望校に必要な受験対策を把握しよう。

★第一志望校と併願校の受験科目を共通化する

併願校の対策が、第1志望校の勉強にもなり、学習したことの理解を深められる。特に数学、理科、地歴公民は、第1志望校と同じ科目で受験できるか、確認しよう。第1志望校にはない出題項目や分野があると、受験対策の効率が悪くなる。私立の一般入試等で「併願校だけの科目」を勉強するために、第1志望校の対策が手薄になるような状況は避けたい。

★科目の配点や比率に注目し、得点戦略を考えよう

得意科目の配点が高く、苦手科目の配点が低ければ、併願校の受験対策を軽減でき、第1志望校の対策に注力できる。また、大学のホームページ等で過去の合格者平均点を調べて、合格に必要な各科目の得点を想定し、負担が大きくなりすぎないか考えてみよう。さらに、偏差値や合格点等のデータを「見る」だけではなく、実際に過去問を解いてみて、問題の難易度を把握したい。問題との相性が良ければ、偏差値的には厳しくても、可能性が出てくる。出題分野や設問内容が近ければ、併願校対策が第1志望校の対策に直結し、より効果的だ。

②最適な方式&組み合わせ

私立大学の入試方式は多様化・複線化している。同じ大学・学部で複数の入試方法を選べる場合も多くある。その選択にあたって大事なのは、「第1志望校合格」という前提を忘れないことだ。特に難関大受験では、併願校対策にかかる労力や時間を削減し、効率的な受験スケジュールを意識して、併願校を検討してほしい。

以下は、入試方式の一例である。各大学のホームページ等で実施している入試方式を調べ、最善の結果を引き出すために、それらをどう組み合わせるかとよいのか、シミュレーションしてみよう。

★共通テスト利用方式：共通テストを受けるだけで、複数の私立大学に出願できる。大学ごとの対策も不要で、受験料も割安だ。3教科型が主流だが、4～6教科型のほうが、倍率が下がる。

★学外試験会場：私立大学で、全国の主要都市などに複数の試験会場を設ける大学がある。近場で受験できれば、移動時間や交通費の軽減にもなり、受験日程に余裕が生まれる。

★全学部日程入試：学部別の入試日とは別に、全学部が同日に共通の問題を使って、一斉に試験を行う。「学部別＋全学部」で同じ大学・学部の併願もできるし、どちらかを受験して他大学との試験日の重複を回避することもできる。「全学部」で、一度に複数学部・学科を併願できる場合もある。

★試験日自由選択制：同じ条件の入試日が複数あり、自分の都合のよい日程を選んで受験できる。特に2月は多くの大学の入試が集中するので、他大学との試験日の重複を回避することができる。また、どうしても行きたい学校の場合は、すべての試験日に出願して、受験の回数を増やすこともできる。

★英語外部検定利用入試：英語資格試験の級やスコアは「出願資格」「得点換算」「外国語の試験免除」等、大学によって扱いが変わる。英語の得意な人が出願する人が多いので、英語以外に勝負できる科目があると心強い。「外国語の試験免除」の場合は、他の科目に集中できるというメリットがある。

★学内併願：同じ大学の異なる学部・学科を併願したり、同じ大学の同一学部・学科を異なる入試方式で併願したりする。「試験慣れして緊張を緩和できる」「受験対策を共有化できる」「学部や入試方式によって難易度に差がある」などの要因によって、合格率が上がる傾向がある。

③第1志望校に向け、受験日程を最適化！

★「易」→「難」の順序で受験して、徐々に自信を高めていく

受験スケジュールは、第1志望校の試験日を中心に組み立て、そこに学力・体力・気力のピークが来るように調整するのが基本だ。緊張しやすい最初の試験は、難易度のあまり高くない大学。その後、徐々に受験校の難易度を上げていき、試験に十分慣れ、自信をもって第1志望校に臨む、というのが理想だ。併願で安心と手ごたえをつかみ、自信をもって、受かる勢いをつくりたい。

★受験日の間隔を適正化し、ほどよい緊張感をキープする

試験が何日も続くと、集中力や思考力が低下する。また、疲労の蓄積によって、体調を崩してしまうこともある。気持ちを切り替え、疲労を回復させる余裕がある日程を組もう。試験日が連続したり、重複したりするときには、入試方式の変更の検討が必要だ。過度な連続受験は避け、適度な間隔で、ほどよい緊張感を保ち、第1志望校に受かる流れを作ろう。

★受験期でも学習日を確保し、最後まで実力を伸ばそう

現役生は、受験期にも実力が伸びていく。共通テスト後、国公立前期日程までは40日ある。落ち着いて勉強できる日数を確保し、しっかりと第1志望校の対策をしよう。

大学入試の基礎知識(第7回) 受験科目・配点を調べる

いま、5年生は受験科目を検討し、6年次に履修する自由選択科目を決定していく時期である。受験科目を調べるために、進路指導部より配布された「栄冠目指して vol.2 入試科目・配点・日程一覧」を活用しているだろうか。細かな字で数字や記号が書いてあり、「見方がわからない」という人もいるだろう。受験科目だけを調べるのではなく、配点などにも注目し、効果的に活用してほしい。6年生はすでに知っていることだと思うが、入試の前にもう一度確認し、自分の目標とすべき得点を明確にしよう。

★科目・配点を調べよう

難関校をいくつかあげて、比較してみよう。

名古屋大学：総合計点 1500 点のうち、配点は共通テストが 900 点、個別試験が 600 点。比率にすると、共通テストが 60%、個別試験が 40%で、共通テストの比率が大きくなっている。

京都大学: 共通テストは 900 点満点だが、備考に「270 点満点に換算する」とある。個別試験は 550 点満点で、総合計点が 820 点満点である。配点比率を考えると、共通テストが 33%、個別試験が 67%で、個別試験が重視されることがわかる。

大阪大学：総合計点 900 点満点のうち、共通テストが 450 点満点、個別試験も 450 点満点である。

【国公立文系の例】

京都大学は 900 点満点を
270 点満点に換算する。

[illegible]

大阪大学は国語200点満点を
100点満点に換算する。

名古屋大学の理科は基礎 2 科目指定だが、発展 1 科目でも基礎 2 科目とみなす。

個別（２次）試験の科目・配点																備考	脚注
国語	地歴	公民	数学		理科	外国語		総合問題	小論文	実技	面接	調査書 点数化	本人記載の資料等	教科数	個別比率		
国語現代古典 古文 漢文A B 含現A B	世界史 日本史 地理B	現代政治・社会 経済	数Ⅰ 数Ⅱ IA IB	数Ⅲ 数Ⅳ A・Bの目録 物理・化学 生物・地学 基礎＋発展 ※例年、編考に 関係する問題に 記載	物理・化学 生物・地学 基礎＋発展 ※例年、編考に 関係する問題に 記載	英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語表現Ⅲ 英語ⅠⅡⅢ リスニング 他の外国語								満点	総合計点		
			200	場設列べ 整		200		200						2 600	40 1500	個別…数学は試験室で公式集を 配付する	9
■ 150	〇〇〇 100		150	場設列べ 整		150	独仏 中							4 550	67 820	英デ…900点満点を270点満点 に換算	9
■ 150			150	列べ		150	独仏							3 450	50 900		5

記号の見方：■は必須科目。

①②は同じ教科内で、この科目数を選択する。
□は教科をまたいで選択する科目。

※この記号は、出版社や予備校等によって異なるので、冊子のはじめに書いてある「表の見方」を確認してほしい。

【国公立理系の例】

自分の得意な科目、苦手な科目、その配点がどうなっているのかを見てみよう。配点を見る際には、その科目の満点だけを見るのではなく、全教科を合わせた総合計点に占める割合を踏まえて、配点が高いか、低いかを考えよう。

北海道大学：総合入試のなかに「数学重点選抜」の枠があり、個別試験 450 点満点のうち数学が 200 点、理科が 100 点となっている。数学で高得点が狙えるのであれば、合格の可能性が大きくなる。

東京大学：共通テスト 900 点満点を 110 点満点に換算する。総合計得点 550 点満点のうち、個別試験は 440 点満点、配点比率 80%と個別試験が重視されていることがわかる。共通テストでしっかりと得点することに加えて、早いうちから記述力をつけておく必要がある。

数学と理科の配点と同じ大学が多い。

大学名	日程	学部名	学科・専攻名等	共通テストの科目・配点												科目数	満点	
				国語		地歴		公民		数学		理科		外国語				
				国語	※除外	世界史A	地理歴史A	現代史A	倫理政治・経済	倫理・政治・経済	数学Ⅰ	数学Ⅱ	基礎科目 基礎2科目 発展科目	発展科目 基礎2科目 発展科目	選択 パターン A基礎1 B基礎2 C発展1 D発展2			外国語
北海道大	前	総合入試 ＝理系	数学重点選抜群	■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	300
東京大	前	理系一、二類		■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	110
名古屋大	前	理		■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	900
京都大	前	理		■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	225
大阪大	前	理	数学、化学、生物科学<生物科学>	■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	300
九州大	前	理		■		100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	5-7	450

共通テストの配点を圧縮する大学が多いが、名古屋大学は 900 点満点のままである。

個別（2次）試験の科目・配点															備考	脚注
国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	総合問題	小論文	実技	面接	調査書 点数化	本人記載の資料等	教科数	個別比率			
国語現代文 古文・漢文 総合	世界史 日本史 地理	現代政治・社会 倫理・経済	数Ⅰ 数Ⅱ 数Ⅲ 数Ⅳ 数Ⅴ 数Ⅵ 数Ⅶ 数Ⅷ													

東京大学、京都大学は、理系でも、個別試験の国語に古文・漢文が含まれている（名古屋大学は現代文のみ）。

この表の中で、総合計点が最も高いのは名古屋大学 2350 点、最も低いのは東京大学 550 点である。配点が低いほど、1 点の重みが大きく、ちょっとしたミスが大きな差につながってしまう。

各大学ホームページ等に、合格点などの入試情報が掲載されている。詳細は必ず、大学ホームページで確認しよう。